

文字は非常に達筆である。高橋景保、吉田勇太郎の識語と各地への里程表はない。これらは元々アクセサリーなので省略したか、天文方の原図になかったかも知れない。表示記号は手書きでなく押印を使っている。軸装の際に北と南が入替わり北が下になっている。元折本。針穴はない。写図の時期の記入はない。昭和28年峰文庫より購入された。

伊豆七島図 中図（軸装 一六〇×四八センチメートル）

伊豆七島中図は、神奈川県立金沢文庫と、大谷亮吉氏の子息英一氏の所蔵が知られていたが、本館蔵の中図は島の内陸部まで彩色された美麗なものである。

軸の始まりに左の文言が記されており、大村藩士峰源助が高橋景保の弟・渋川助左衛門の九段の司天台に留学中に、許可を得て写したものである。嘉永七年の年記がある。

此図及日本地図江都九段坂司天台所蔵之秘図而素禁他見嘗當隻月晒書偶得一見意欲之而不敢言然以謂不請之於今而悔之於後既無及且縱出千余求之於他焉可復得哉遂敢請之先生幸善志速許之巨戒日謹勿洩矣不勝雀躍欣然騰寫因聊記其故感諸家而傳不朽云爾十時  
嘉永七年甲寅夏六月

峰源助源潔謹識

標題は左のとおりである。

自豆州賀茂郡吉佐美村 沿海並 伊豆国附七島図 以曲尺六分  
至相州足柄下郡小田原宿 為一里

四国全図（文化六年上呈中図）一〇三×一三四センチメートル 軸装

山景の描図は丁寧で、彩色は濃い。緑色はやや暗い色。若干の退色がある。緯線はあるが経線はない。方位線はある。合印は揃っている。文字達筆。虫少し有、右縁に傷みが少しあるが、保存完全。西を上

する。合印の凡例がある。

琵琶湖図 卷子本（五八×一〇〇・五センチメートル）

安政二年二月、峰源助写。汚れ（カビ）はなほだしい。合印ほとんどなし。文字は達筆。

実測奥州松嶋図 折本（八九×一〇四・五センチメートル）

文政二年二月、峰源助写。松島部分だけの大図である。裏打なし。

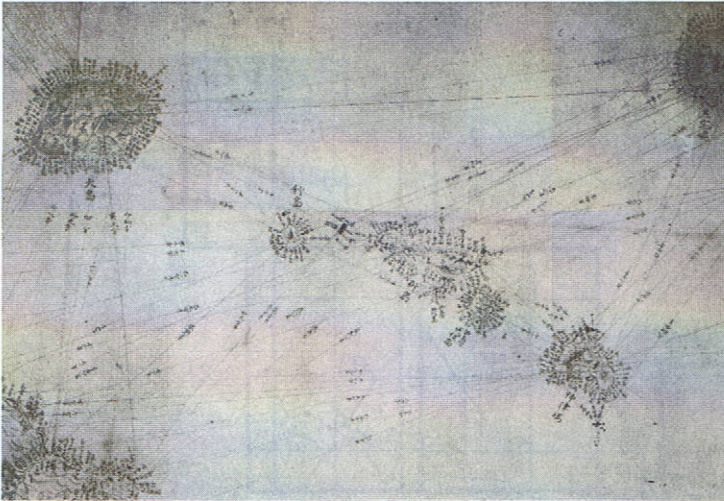


図3 長崎市立博物館蔵 伊豆七島図（部分）